

第1回 NITS 大賞（平成 29 年度）エントリーシート

宮城県気仙沼市立松岩中学校 伊藤浩志

A-38

【活動名】 管理職による不祥事への対応

解決すべき課題： どんな問題を解決しましたか？

平成 28 年 10 月 5 日（水）に発生した現役中学校校長による児童買春・児童ポルノ禁止法違反（児童買春）での逮捕，起訴事案。突然大きな問題に直面した本校が，現場でどのように対応し通常の教育活動を取り戻したか，また，生徒や教職員の心のケアをどのように図ったか。キーワードは，「迅速な判断，指示」と「組織での対応」，「心のケア」であった。

目的や背景： 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

- 1 活動の目的（1）危機管理における対応（2）教育活動の回復（3）生徒・教職員の心身のケア
- 2 課題の背景（1）震災の影響（多忙感，喪失感）（2）コンプライアンスの低下（3）正常性バイアス（当事者意識の欠如）

活動内容： 何をしましたか？

「研修成果活用部門」については、研修のどのような内容を活用して課題解決につなげたかがわかるように記載して下さい。

- 1 危機管理における対応 「リスクマネジメント：リスクマネジメントの基礎知識」
（1）発生直後・警察と学校の対応＜警察は覆面車で来校。学校への配慮（学校から上司への連絡の指示や警察との対応窓口（教頭）の一元化＞学校は，教頭の指示のもと，生徒を動揺させないための対応（職員室・校長室付近への出入り禁止，通常教育活動の続行など）
（2）気仙沼市教育委員会・事態の収拾のために本校に発生直後から 2 名常駐させる体制をとり陣頭指揮
（3）管理職・初期対応策として市教委の指示の下で教育活動を展開
PTA 本部役員（会長など）への連絡と協力依頼・保護者との協力体制づくり（当日の夜）「リスクマネジメント概説：危機管理」
全校集会の開催・イ：実施の検討・指示 ロ：生徒の心情への配慮 ハ：登下校などの生徒への指示及び教員による見守り など
（翌日の朝）「情報開示と説明責任」
保護者説明会の開催・イ：今後の対応 ロ：家庭でのケア ハ：協力依頼 ニ：新校長の発表 など（翌日の夜）
「報道発表資料の作成及び演習の進め方：報道対応方針の決定など」
新校長の赴任・イ：女性校長の赴任 ロ：正常化へ向けた迅速な対応（5 日後）
（4）教職員・学校経営（ビジョン）の具現化を目指した情報共有・共通行動「学校マネジメント：教職員のメンタルヘルスマネジメント」
「学校マネジメント：ミドルリーダーの役割」
教務部・教育活動の円滑な実施 イ：全校集会の会場準備等の計画（設営計画や役割分担）ロ：年間計画に即した教育活動の展開
生徒指導部・生徒の安全確保と学校周辺の環境整備 イ：直後の情報管理（生徒の職員室入室禁止）
ロ：登下校の巡視（マスコミ対策を含めた生徒の見守り）
保健部・生徒の健康観察と心理的なケア イ：細やかな観察と丁寧な見取り
（担任への資料提供，家庭との連携，声掛け，保健指導・保健だよりの発行など）
ロ：個に応じた対応（情報共有，チームでの対応）
- 2 教育活動の回復 「学校組織マネジメント：コーチングの学校教育における必要性」
（1）新校長の赴任（市教委指揮から自校の自治体制の確立へ）
校内の安定・秩序の回復・市教委への要望などの調整，指示（生徒の校外での活動や事件に関する電話や郵便物への対応など）
生徒，教職員への鼓舞・イ：励ましの挨拶 ロ：立て直しのビジョンの明示 ハ：明確な指示 ニ：行政との連携 ホ：校長会との連携
（2）保護者，地域との連携・校長を先頭に教職員，生徒の地域の活動等への積極的な参加や保護者の要望への対応
（3）学校行事の通常開催・文化祭の実施に向けた生徒，教職員，保護者が一丸となった取組「学校組織マネジメント：行事を活用した育成」
- 3 生徒・教職員の心身のケア 「学校組織マネジメント：コミュニケーション力」
（1）心のサポート体制の充実・SC の増員と SSW の常駐（アンケート作成やカウンセリングなど）
（2）施設・設備の再点検・心のケアに結び付く環境整備（生徒の安全管理の徹底）「教育法規：教育委員会と学校，学校安全と学校事故など」

活動の成果： それによって、どんな成果が得られましたか？

- 1 市・県教委の迅速な指揮のもと，危機管理の初期対応策が整然と実践された。また，2 次被害の防止に努めることができた。
- 2 新校長の下で，ともに逆境をチャンスに変え，生徒と教職員，保護者との絆を深めることができた。また，教職員がひとつの指針に向けた一枚岩になり「チーム学校」の思いを実感できた。さらに，生徒とともに，自己有用感の醸成が図られ，本校に対する「誇り」を取り戻すことができた。
- 3 震災を乗り越えてきた心の強さや経験を生かし，生徒や教職員の心のケアを図るとともに慎重かつ素早く対応することができた。

アピールポイント（アイディア）： もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

事件発生からの対応が非常に丁寧かつ迅速であった。直後，市・県教委の配慮により，学校に 2 名の市教委指導主事が常駐する形で，外部機関との対応・連携にあたってくれた。マスコミや生徒，保護者への対応に関する方針や指示が学校の意に沿った形で進められたことから，最小限の混乱で済んだ。また，水曜日に起きた事件に対して，休みを挟んだ 5 日後という異例の速さで新校長が赴任したことは教職員が一致団結できた大きな力となった。さらに，心のケアに関しては，SC（スクールカウンセラー）を増員し，SSW（スクールソーシャルワーカー）も常駐するなど，生徒だけでなく教職員の心のケアとサポートを大切にす体制が早急に整えられた。このように，現場の要望に対し，市・県教委が迅速にしかも親身になって支援してくれたことが学校の早期立て直しに結び付いた。また，自分自身も各連携や支援があったからこそ，学校の中核を担う教務として研修の内容を生かした発言や行動に結び付き課題解決の一助になったと考える。

補助資料

迅速な対応と心のケア（実際の対応から）

	学校	市教委	生徒に対して
5日 (水) (当日)	<ul style="list-style-type: none"> 警察来校。教頭対応。市教委へ報告。 昼休みに臨時職員会議を実施し、教頭が事件の概要を全職員に説明。 夜、PTA臨時本部役員会を開催し、事件の概要を説明。協力を依頼。 役員会后、職員打ち合わせで今後の動きと生徒の安全確保、心のケアについて共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 事件発覚直後より学校に常駐し、連絡、指示体制を整備。 学校周辺の警備。 記者会見 	<ul style="list-style-type: none"> 警察捜査の様子が生徒の目に触れないよう配慮。 通常授業の実施。
6日 (木) (翌日)	<ul style="list-style-type: none"> 職員打合せ（指示系統及び外部対応の一本化について確認） 外部対応及び指示系統の一本化（教頭） 校地内の点検 全校生徒集会の実施。 保護者説明会の実施。 情報の共有（生徒からの相談や保健室来室状況等） 情報の管理（テレビ、新聞、インターネット等のチェック） 保護者へとの連携（心のケアについて周知。生徒の様子や変化を情報交換） 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者説明会の実施 警察との連絡、調整 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒集会の実施。教頭から事件について説明、謝罪。 学活の設定（担任から事実を伝えるとともに、いつでも、どんなことでも相談できる体制であることを周知） ふれあう時間を多く持ち、細やかに様子を観察。 生徒の話をよく聴き、不安定な心に寄り添うことを徹底。 継続的に声がけをし、安心感を与える。 新聞配布の休止。
7日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> 職員打合せ。新校長発表。 生徒、教職員に「心と体のアンケート」実施。 	<ul style="list-style-type: none"> SCの増員、配置調整 	<ul style="list-style-type: none"> SC、SSWと連携した対応（アンケート、面談、カウンセリング、リラクゼーション等）
11日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> 新校長着任 再発防止の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> マスコミ、外部対応 自治は学校に一任 	<ul style="list-style-type: none"> 着任式の実施（「あなたたちは悪くない」「あなたたちは先生方、地域に愛されている」「あなたたちを守っていく」という校長挨拶）
その後	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス研修（当事者意識の醸成、セルフチェック、相互点検） 教職員の心のケア（セルフチェック、面談、相談体制の整備、声かけや温かいつながり、結び付きを大切にされた職員室の雰囲気づくり） 出張の対応（出張の厳選） 当初予定されていた指導主事学校訪問の中止（生徒とのふれあいの時間を作り出す） 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急集会の実施（マスコミ対策で本校職員は出入口を別とする配慮） コンプライアンスチェックシート作成、各学校での定期的な実施 	<ul style="list-style-type: none"> 登下校時の見守り 学校行事、部活動（対外試合等）を通して、達成感や自尊感情を味わわせる指導の継続 相談体制の整備

朝夕の職員打合せ
登下校の見守り
一斉退庁

学校に常駐
登下校の見守り
マスコミ対応
問い合わせ、苦情対応
警察との連絡、調整

【保健室利用状況】

保健室利用者数は213名。前月（129名）の1.6倍で、特に内科的主訴での来室が多かった。頭痛、腹痛等の訴えで来室しても、話を聞くと、精神的な要因が考えられる者が多くいた。

【生徒からの訴え】

「逮捕された校長先生は好きだったが、このような事が起こり、何を信じればいいのかわからない」「男性の先生が怖い、話しづらい」「SNSで勝手なことを書かれている」「SNSで松岩中の生徒だと特定され、嫌がらせのメッセージが送られてくる」「周りから松岩中の生徒だと思われるのが嫌で、制服やジャージ姿では外出したくない」「好奇の目で見られそうで、大会に参加するのが怖い」「事件に関し、教室で悪口を言う人たちがいる。自分が同じように悪口を言われていじめられた経験を思い出してしまい、つらい」「受験に影響するのではないかと心配である」等。